

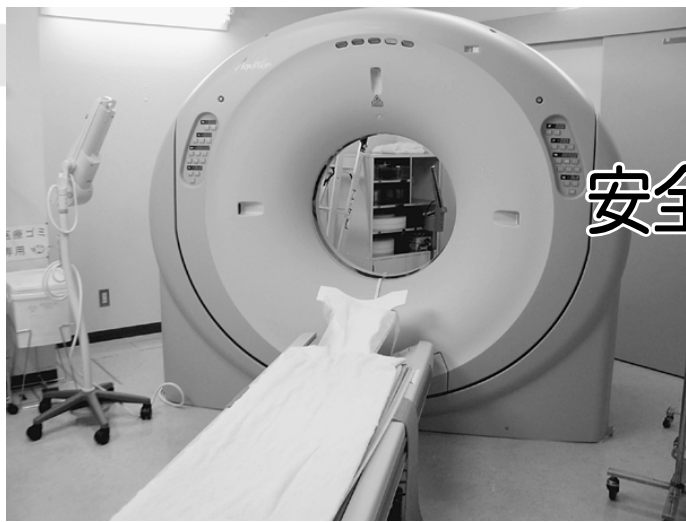


写真1 CT本体

安全・正確な手術への道しるべ 検査時間も短縮

代々木病院の新しいCTについて

外科 大野義一朗 (医師)

CT検査で 体の中を見る

おなかを抱えて痛がっている患者さんのおなかの中で何が起きているのか？意識がなく右の手足が動かない患者さんの脳の中で何が起きているのか？体の中をのぞいてみたいというのが長年の医者の願いでした。

この夢を実現したのが、30年前に登場したCT検査でした。コンピュータを使ってからだの断面図をみることで、この検査は、あっという間に世界中に広まりました。脳卒

中は血管が詰まった梗塞が血管が破れた出血、前でCT検査を導入して、多くの人を救ってききました。そして2007年末、4代目の最新CTを購入しました。(写真1)

新しいCTにはたくさんの特徴があります。CTのときには動かないように息を止めなければならず、これが苦しかったのですが、今度のCTは半分の時間ですみます。放射線を浴びる量も少なくなりました。

代々木病院に
あたらしいC
Tが登場
臓器が立体的
にみえてくる
また、これまでは体の輪切りの断面面だけ

代々木病院では20年

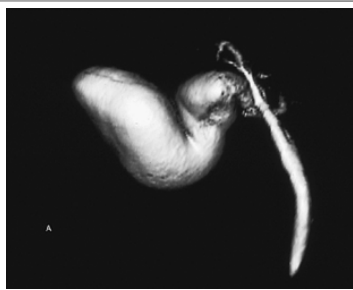
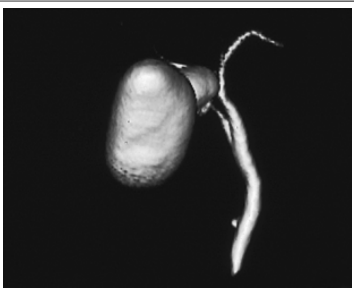
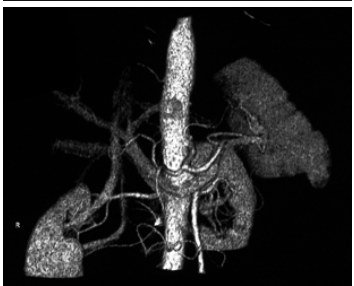
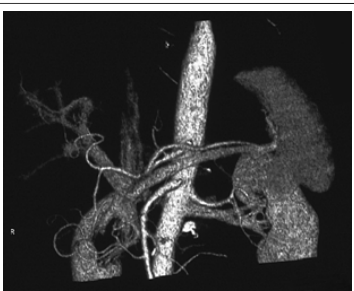
写真2 (3枚) =胆のうの
写真。回転しているような角
度から見る事ができる写真3 (3枚) =血管の走
り具合が立体的にわかる

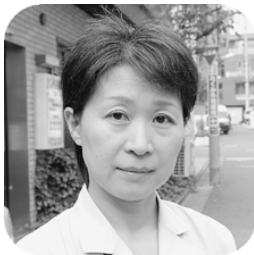
写真4 大腸のCT写真から



りました。(写真2)
このことは手術をするときに地図を持っていくようなもので、安全に正確な手術ができるようになります(写真3)。

大腸や胃も内視鏡で覗いたように検査ができます(写真4)。その他にも苦痛なくこれまで以上の詳しい検査ができるあたらしいCT検査、担当の医師と相談し活用してください。

「春苦み、夏は酢の物、秋辛味、冬は脂と合点して食べ」と明治の食養生家が詠んだそうです。春から夏に活発になる肝臓の働きを酸味が助けるので、これからの季節は爽やかな酸味の果物が体へのくすりになります。びわ、いちご、夏みかん、すももなどが回り始めます。他に、酸味の食べ物というのを思い浮かべますか？梅干し、レモン、ヨーグルトなど、意外に様々な応えが返ってきます。



酸っぱいくすり

斉藤 典子 (薬剤師・たくみ外苑薬局)

くすりの話あれこれ 39

どちらでもない梅・びわ・プルーンなどがありますので、体質・体調で選んだり、付け合わせを考えるのもよいです。酢の物では、塩からさや甘さでバランスをとった二杯酢、三杯酢にどんな具を入れるかで調整できます。

さて、酸味の代表の梅干しはバランスがよく、日本では年代・地域を問わず親しまれています。梅干しは豊富なクエン酸、リンゴ酸などが肝臓を、塩分・ミネラルは腎臓を、漬けるときに使われる紫蘇(しそ)の辛味が肺

・大腸の働きを助け、殺菌、疲労回復、頭痛・車酔い止めなど多くの効き目が知られま

薬剤師をご紹介します

たくみ外苑薬局(代々木地域)、わかば薬局(東葛地域)では薬剤師を募集しています。

民医連の薬剤師活動に興味のある薬剤師さん、地域医療の最前線で働きたいという薬剤師さんをご紹介します。

—— 問い合わせ先 ——

外苑企画商事 本部事務室
電話 03-3402-2108(担当 高田)
FAX 03-3402-1694
E-MAIL takada@gaiki.net

「梅は三毒を絶つ」す。「梅はその日の難逃れ」などことわざにも多く登場します。「塩梅(あんばい)」は梅を塩漬けたときにできる梅酢と塩の割合をいい、バランスのよさを言うようになりました。

梅は奈良時代頃、「烏梅(うばい)」といっ

って青梅を熏製(くんせい)したくすりとして日本に伝えられました。塩漬は平安中期に始まり、庶民に広まったのは江戸時代。その効能は幅広く、抗菌・鎮痛・解毒、健胃・整腸、回虫駆除などです。民間薬としても、風邪、咳、おでき、乳腺炎などにも使った記録があります。これだけ多くの用途に使われ続けている万能薬はなかなかありません。烏梅や梅干しについては、今後の研究によって、酸味成分以外にも成分比などなぜ効くのか解明されてゆくと考えられます。先人は使い方をよく知っていました。現代の私達は使い方をすたれさせないようになすことも大切だと考えています。

最後に酸味の取り方のポイントを3つ。胃の弱い方は酸味を少し控えるめに、尿酸値の高い方は果物をとりすぎないように、カロリー制限のある方は美味しい酢ほど糖分が高いことを心得て、美味しく夏支度しましょう。